

I. 調査要領

1. 調査時点及び調査対象期間

(1)調査時点 平成 25 年 4 月 1 日

(2)調査対象期間 平成 25 年 1 月～3 月期の実績および平成 25 年 4 月～6 月期の見通しについて調査した。

2. 調査対象

当所会員企業を対象に、商業＋食品業部会、水産業部会、機械工業部会、建設業部会、観光・サービス業＋諸業部会より各 30 社、計 150 社を抽出し郵送により調査した。

3. 回収状況

	企業数	回答企業数	回 答 率
商業＋食品業部会	30 社	18 社	60.0%
水産業部会	30 社	18 社	60.0%
機械工業部会	30 社	16 社	53.3%
建設業部会	30 社	19 社	63.3%
観光・サービス業＋諸業部会	30 社	19 社	63.3%
合 計	150 社	90 件	60.0%

注) 本調査結果の中で、「D・I」値とある記号は、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目についての増加（好転・上昇）企業割合から減少（悪化・低下）企業割合を差し引いた値（景気動向指数）を示す。

Ⅱ. 概況

－業況は悪化・次期も悪化見込み－

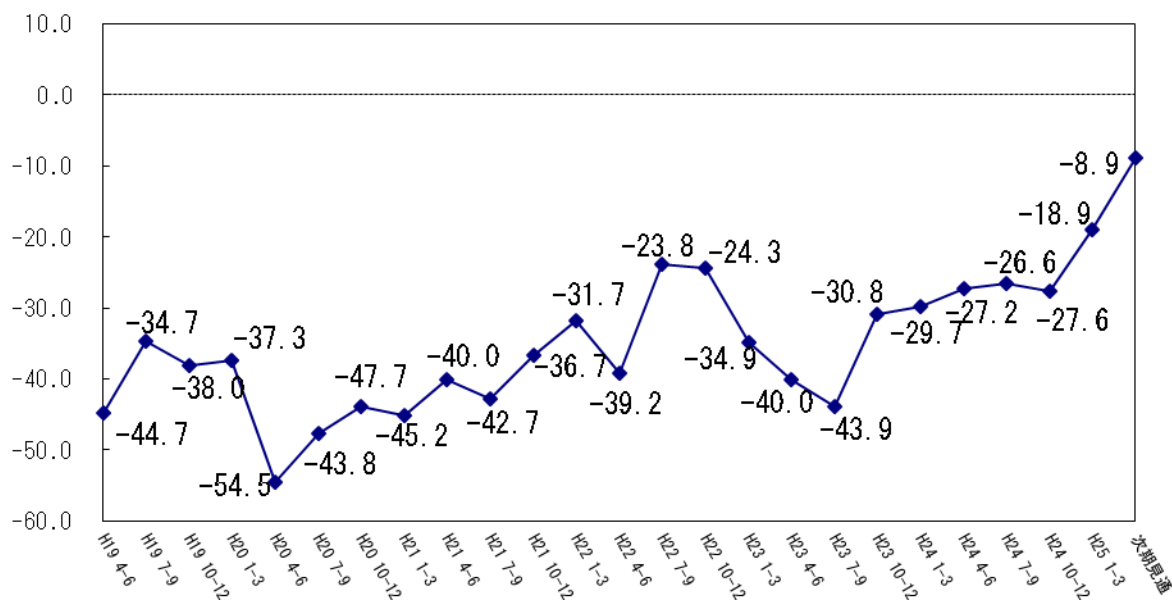
1. 全体の動き(業況)

四半期毎に実施している中小企業景況調査の**今期(平成25年1月～3月)の全業種平均DI値**(「好転」と答えた企業と「悪化」と答えた企業の割合の差)は、**前年同期比では△18.9**と前回調査時の△29.7からやや改善した状況となりました。前回の調査では次期見通しが-31.4の悪化と予想されていたため、予想よりも景況が改善してきたという結果になりました。今後、アベノミクス効果により市内経済を取り巻く経営環境が改善していくことに期待しています。

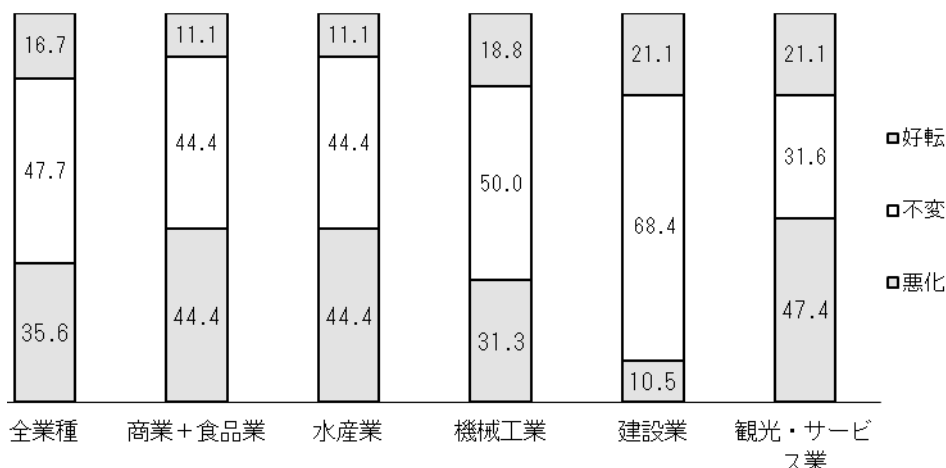
部会別で前年同期比ベースをみると、**商業・食品業**[前年DI値△46.7→今期△33.3]、**水産業**[前年DI値△31.3→今期△33.3]、**機械・工業**[前年DI値△23.5→今期△12.5]、**建設業**[前年DI値△36.4→今期10.5]、**観光・サービス・諸業**[前年DI値△14.3→今期△26.3]となりました。業況はマイナス水準で推移しているものの、**建設業**においては、調査を開始した平成16年以来初めてのプラス回復となりました。平成24年度補正予算による公共事業の発注などが順調に行われてきており、ようやく仕事が回ってきたという声も聞いております。また**機械・工業**も前年よりは業況回復の兆しが見え、こちらも好調な建設業からの車両関係の仕事が回ってきているなどによる効果と思われます。反面、**商業・食品業、水産業、観光サービス諸業**については全体的に業況が悪い状態であり、今後の夏場商戦・景気回復に期待を持ちたいところです。

来期(平成25年4月～6月)については、今期と比べて**業況判断DIが10.0ポイント改善**する見通しで、景気回復の兆しが現れてきたのではないかと思います。

業況推移 (全業種平均D・I)
(好転－悪化)



今期の業況（前年同期比）



経営上の問題点としては、全業種で**需要の停滞**と**原材料仕入れ単価の上昇**が訴えられており、円安の影響等が強く出ているものと思われます。

■部会別の動向

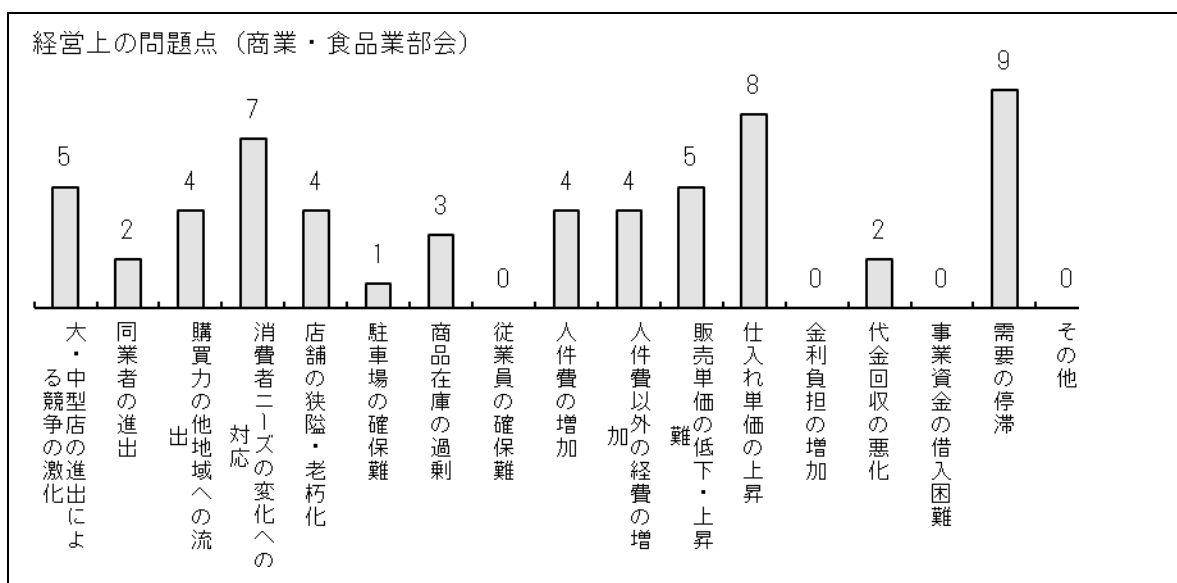
【商業・食品業部会】〔業況判断DI値（前年同期比）△33.3（前年DI値△46.7、来期見通し△33.3）〕

業況DI値（前年同期比）は、前年DI値よりも景況改善が見られるものの依然として低調な状況です。人口の減少や購買力の低下等を訴える声が多く聞かれ、来期見通しも△33.3と横ばいの予想ですが、夏商戦に向けての期待を持ちたいところです。

経営上の問題点としては「**需要の停滞**」に加え、円安による「**仕入れ単価の上昇**」および「**消費者ニーズの変化への対応**」を訴える声が多く寄せられています。

《業界の問題点等》

- ・大手小売業界の市場の独占。流通商品の寡占化によって、専門店としての存在感が低下。大型店の商材の隙間を縫う形で…苦戦を強いられているのが現状である。（小売）
- ・営業者・店員の高齢化。従業員（アルバイト・パート）を使いたいが、資金難の為、雇うこともできず、今後の経営が更に困難になることが予想される。（小売）
- ・大雪のあと、幹線、支線に除雪が入るまでお客さんの来店が期待できなくなってくる。今年のように排雪されずに車道・舗道に多く残されると交通の障害及び景観が損なわれる。市の予算、機材、人員など仕方ないことですが。（小売）

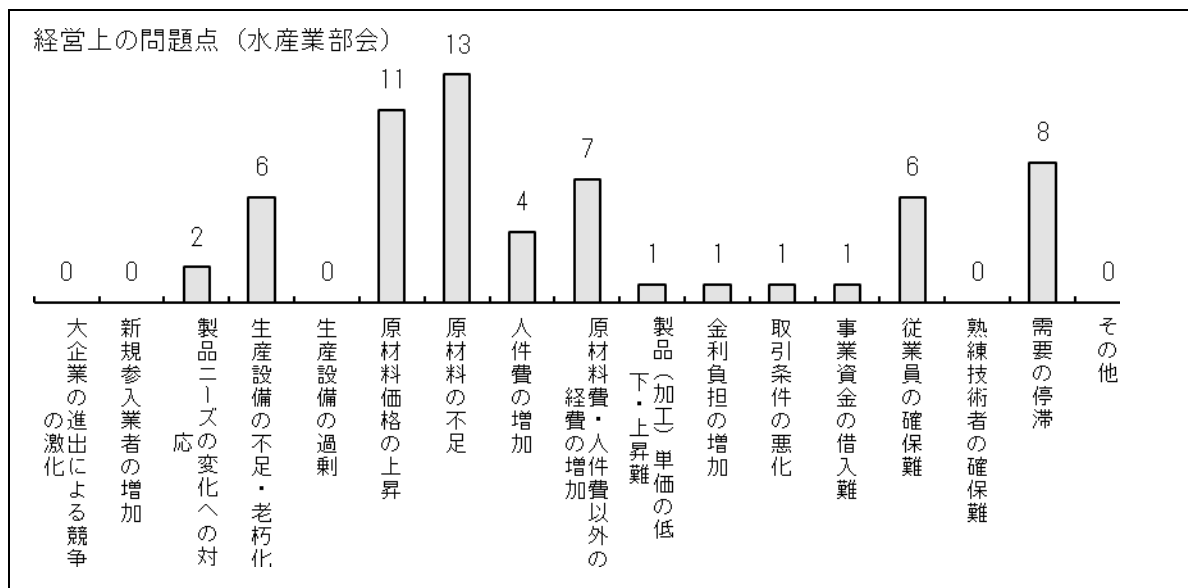


【水産業部会】 [業況判断DI値（前年同期比）△33.3（前年DI値△31.3、来期見通し27.8）]

業況判断DI値（前年同期比）は、流氷が去った港の状況は、本格操業にはまだ程遠く、業況も低い数値となっています。漁業関係者からは、原材料不足と円安による原材料価格上昇が水産加工業に打撃を与えているので経営内容はあまり良くないと聞いております。来期見通しとしては毛ガニ、ホタテなどの本格操業を迎え大幅に改善していくとの見方が広がっています。経営上の問題点としては「原材料の不足」「原材料価格の上昇」「需要の停滞」を訴える声が多く寄せられています。

《業界の問題点等》

- ・ 原材料費の値上げの兆し有り。また、消費税対策で懸念要素が多すぎます。（水産加工）
- ・ 天候悪化や不漁による原材料の不足に伴う原料高や石油関連の原材料費が値上げする中で、製品売価への原価が充分にできず、苦戦している。今後は漁獲回復、販売価格引き上げによる収支改善を図る。（水産加工）



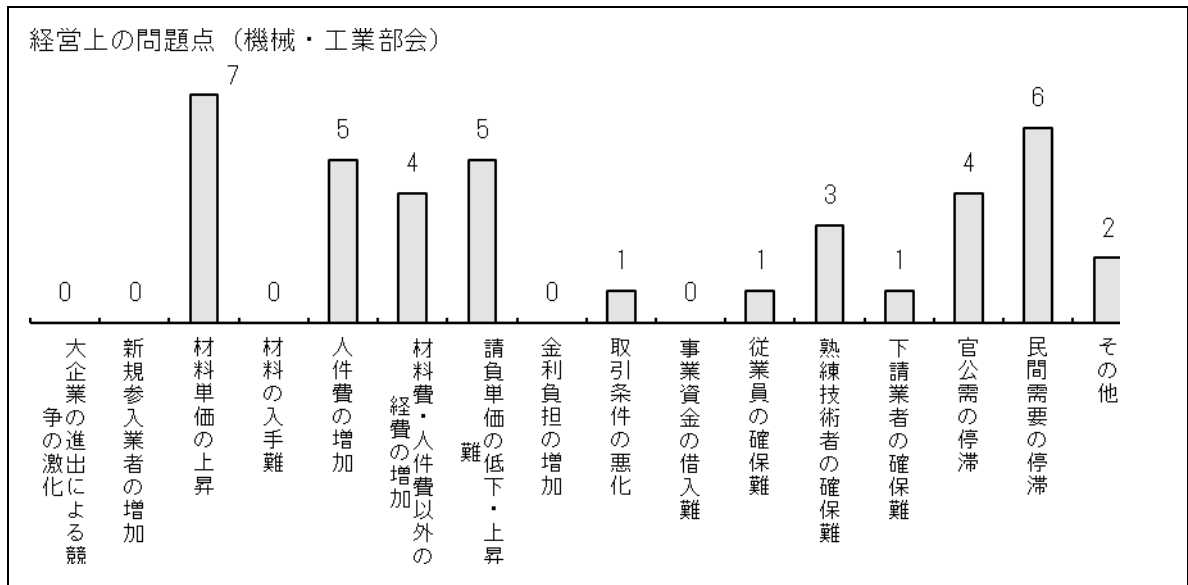
【機械・工業部会】 [業況判断DI値（前年同期比）△12.5（前年DI値△23.5、来期見通し△6.3）]

業況判断DI値（前年同期比）は、建設業の業況が良くなってきたことによる、自動車関連の修理・板金業の売上が伸びてきており、改善しつつあると思われます。自動車小売業などでは、原油価格高騰による影響もあり、ハイブリッドカーなど燃費の良い車の売れ行きが好調とも聞いております。また、本格稼働前の機械設備の修理点検などの受注が増えているようです。来期見通しも業況が改善していくとの見方が広がっています。

経営上の問題点としては、円安による「材料単価の上昇」「民間需要の停滞」を訴える声が多く寄せられています。

《業界の問題点等》

- ・ 全体的に仕事が減っている。季節にも関係あり。どの業者も大変だと思います。私共車関係には少しのキズなど直さず、大きい事故が多い程度部品代で工賃が少ないです。車の保険会社も昔と同じ安さの工賃の為、利益が少ない状態です。（修理業）
- ・ 事業主が高齢化で後継者問題（小売修理業）
- ・ 熟練技術者の確保難（鉄工業）
- ・ 若手の育成（鉄工業）



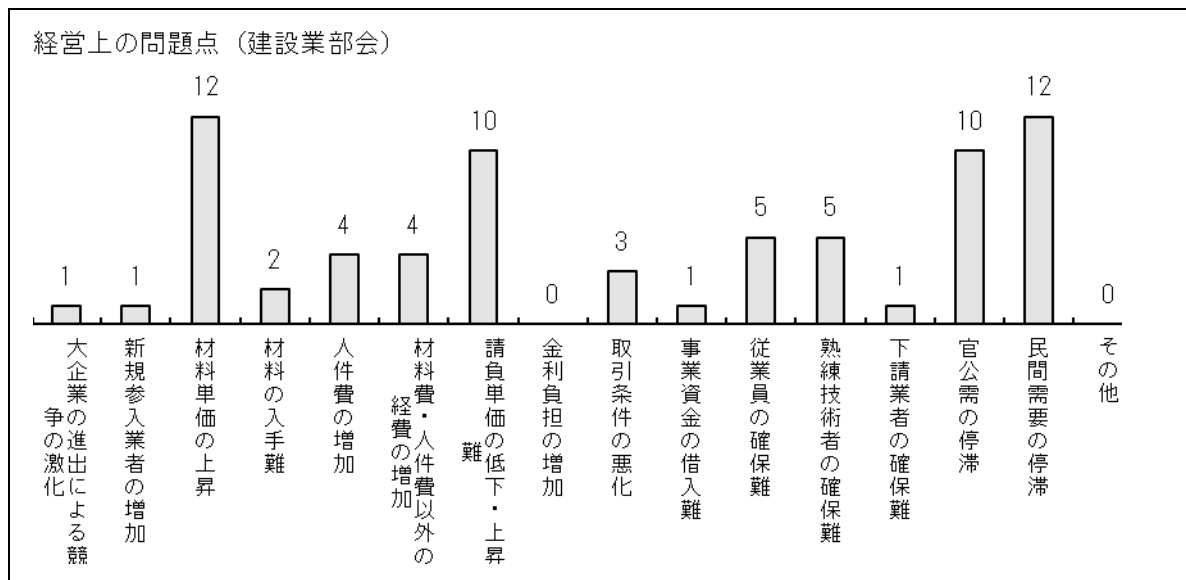
【建設業部会】 [業況判断DI値（前年同期比）10.5（前年DI値△36.4、来期見通し△10.5）]

業況判断DI値（前年同期比）は、平成24年度補正予算による公共工事の受注のおかげで大幅なプラス回復となっています。今後夏の本格シーズンに突入し、アベノミクス効果による公共工事量の増加や土木建築工事が増えることを期待し、忙しい状態が続いていくものと思われます。

経営上の問題点としては「民間需要の停滞」「材料単価の上昇」「官公需の停滞」「請負単価の低下・上昇難」を訴える声が多く寄せられています。

《業界の問題点等》

- ・公共工事が増えてきて動きが出てきた。（建設）



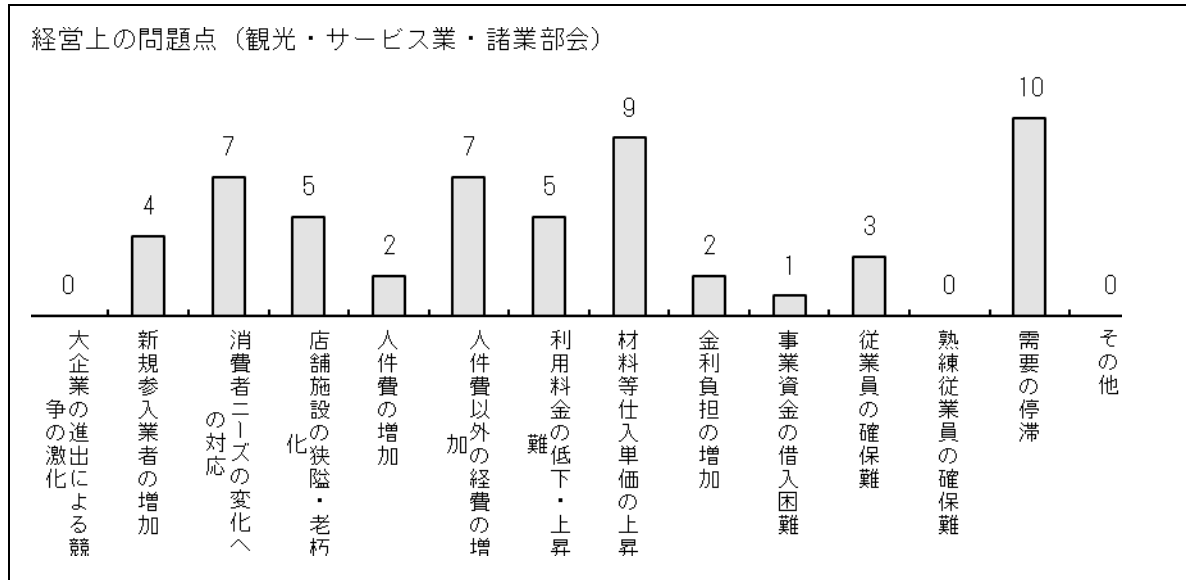
【観光・サービス・諸業部会】 [業況判断DI値（前年同期比）△26.3（前年DI値△14.3、来期見通し△21.1）]

業況判断DI値（前年同期比）は、あまり良い状況ではない数字となっております。冬のガリコ号の乗客数は例年並みと発表されていましたが、観光産業はなかなか伸びていない状況と聞いております。また、全業種の景気状況に左右される業種であり、アベノミクス効果による景気浮揚が出てくれば、飲食業をはじめとした各種サービス業も、来期見通しとして徐々に良くなっていくのではないかと見ております。

経営上の問題点としては、「需要の停滞」「材料等仕入単価の上昇」を訴える声が多く寄せられています。

《業界の問題点等》

- ・大雪・吹雪で極端な売上の減少。食材原価の値上げ（例：食用油約 20%増）。ガソリン、電気、ガスの値上げが予想され、経費が増えそう。GWの好転と来客増を期待します。（飲食業）
- ・いよいよオホーツクも春本番を迎えます。GW行楽客さま、芝ざくら、チューリップ花観光に大期待していますが、ガソリン価格の高騰が不安材料です。（飲食業）



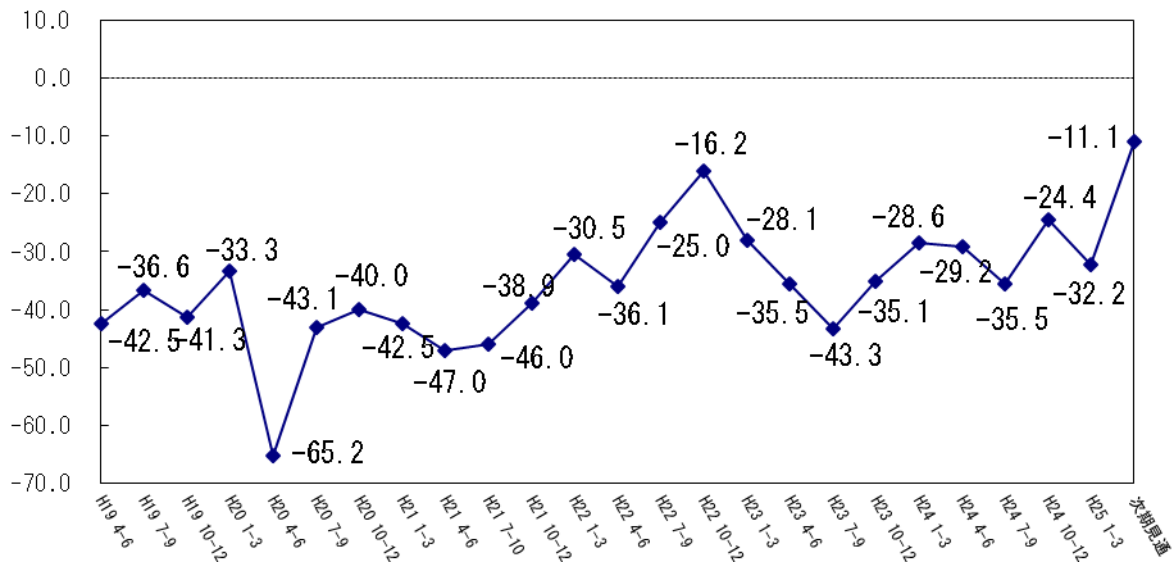
2. 今期の動向

(1) 今期の売上高・生産高

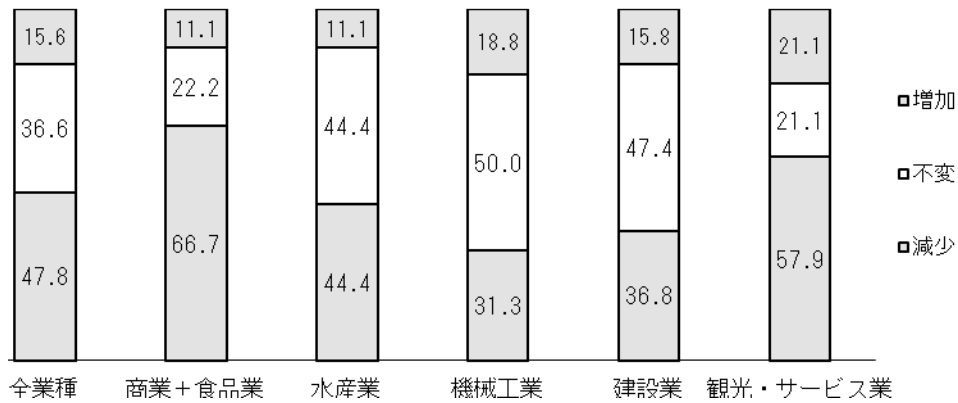
【前年同期比】（平成 24 年 1 月～3 月期の水準と比較した今期の売上高）

売上状況（全業種平均D・I）

（増加－減少）



今期の売上高・生産高（前年同期比）



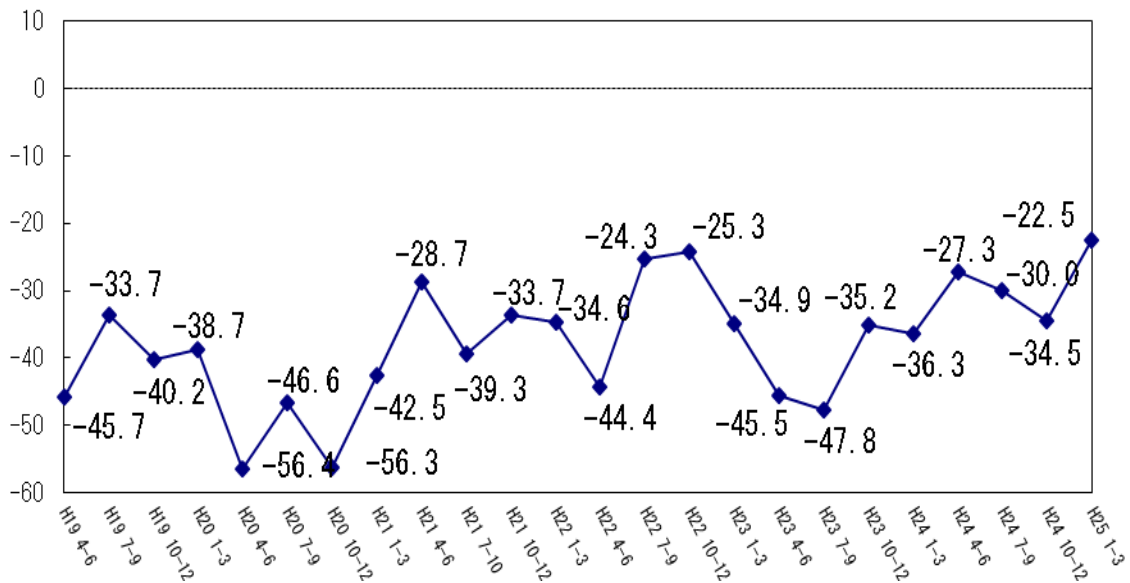
全業種平均でDI値 $\Delta 28.6$ 〔前回調査時（平成24年10～12月期 $\Delta 24.4$ ）より4.2ポイント悪化。〕

〔部会別DI値〕 商業・食品業〔前年 $\Delta 46.7 \rightarrow \Delta 55.6$ 〕、水産業〔前年 $\Delta 31.3 \rightarrow \Delta 33.3$ 〕
 機械工業〔前年 $\Delta 29.4 \rightarrow \Delta 12.5$ 〕、建設業〔前年 $\Delta 18.2 \rightarrow \Delta 21.1$ 〕
 観光・サービス業・諸業〔前年 $\Delta 23.8 \rightarrow \Delta 36.8$ 〕

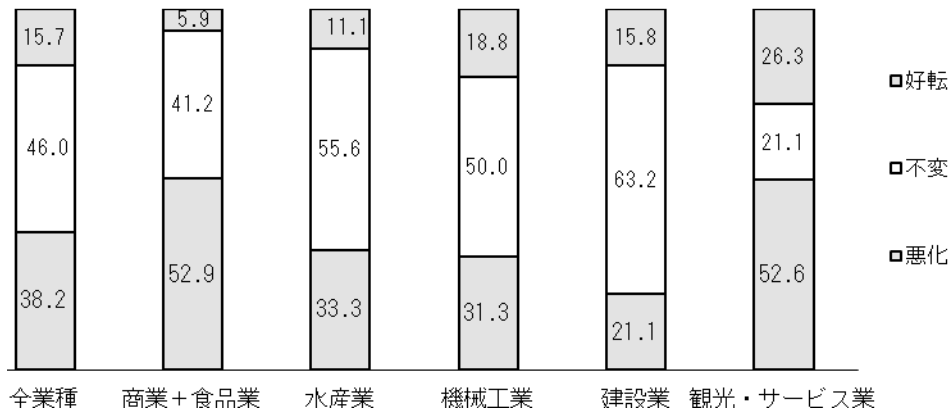
(2) 今期の採算

【前年同期比】（平成24年1月～3月期の水準と比較した今期の採算水準）

採算推移（全業種平均D・I） （好転－悪化）



今期の採算（前年同期比）



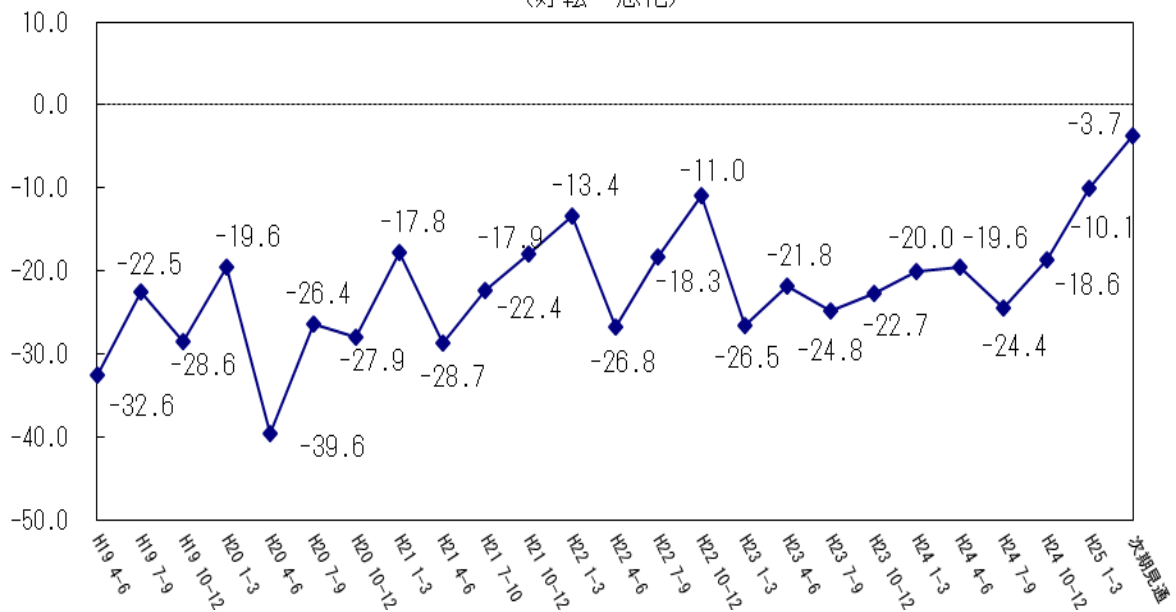
全業種平均でDI値 Δ 22.5〔前回調査時（平成24年10～12月期 Δ 34.5）より12.0ポイント改善〕

【部会別DI値】 商業・食品業〔前年 Δ 33.3 \rightarrow Δ 47.1〕、水産業〔前年 Δ 37.5 \rightarrow Δ 22.2〕
 機械工業〔前年 Δ 41.2 \rightarrow Δ 12.5〕、建設業〔前年 Δ 36.4 \rightarrow Δ 5.3〕
 観光・サービス業・諸業〔前年 Δ 33.3 \rightarrow Δ 26.3〕

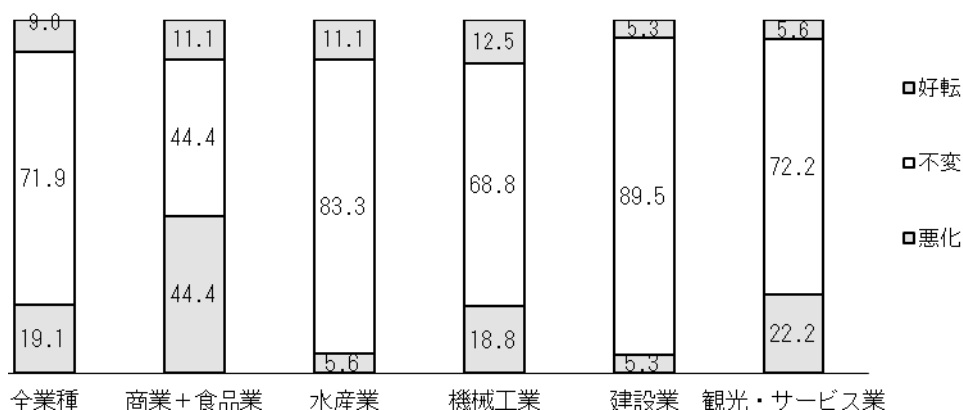
(3) 今期の資金繰り

【前年同期比】（平成24年1月～3月期の水準と比較した今期の資金繰り）

今期の資金繰り（全業種平均D・I） （好転－悪化）



今期の資金繰り（前年同期比）

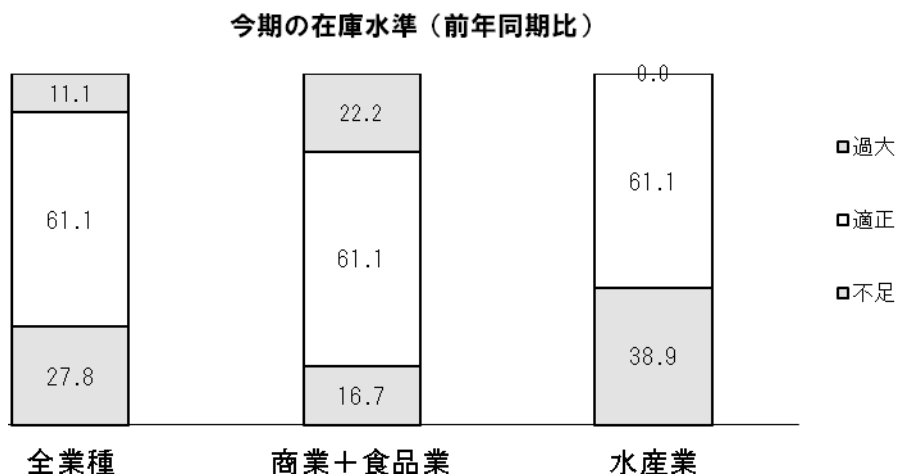


全業種平均でDI値 $\Delta 10.1$ 〔前回調査時（平成24年10～12月期 $\Delta 18.6$ ）より8.5ポイント改善〕

〔部会別DI値〕 商業・食品業〔前年 $\Delta 26.7 \rightarrow \Delta 33.3$ 〕、水産業〔前年 $\Delta 6.3 \rightarrow 5.6$ 〕
 機械工業〔前年 $\Delta 29.4 \rightarrow \Delta 6.3$ 〕、建設業〔前年 $\Delta 18.2 \rightarrow 0.0$ 〕
 観光・サービス業・諸業〔前年 $\Delta 20.0 \rightarrow \Delta 16.7$ 〕

(4) 今期の在庫水準

〔前年同期比〕（平成24年1月～3月期の水準と比較した今期の在庫水準）



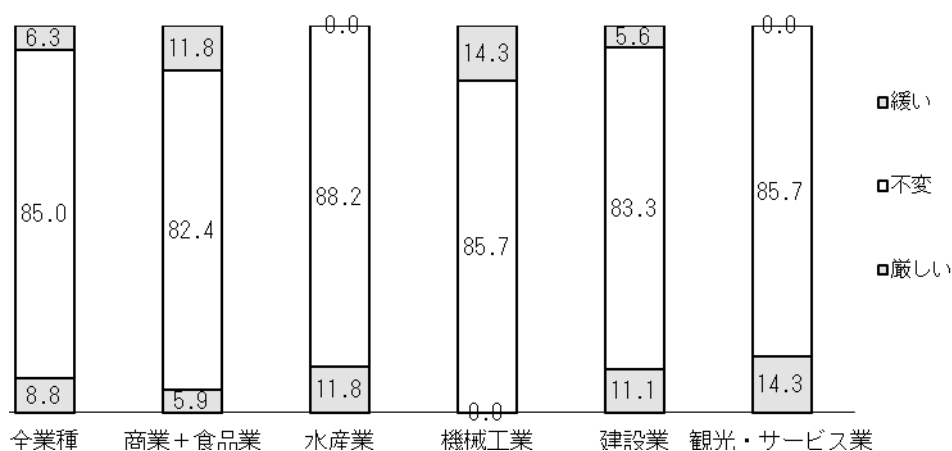
全業種平均でDI値 $\Delta 16.7$ 〔前回調査時（平成24年10～12月期 $\Delta 9.4$ ）より7.3ポイント在庫減少〕

〔部会別DI値〕 商業・食品業〔前年 $\Delta 20.0 \rightarrow 5.6$ 〕、水産業〔前年 $\Delta 18.8 \rightarrow \Delta 38.9$ 〕

(5) 今期の金融機関の貸出姿勢

【前年同期比】（平成 24 年 1 月～3 月期の水準と比較した今期の金融機関の貸出対応）

今期の金融機関の貸出姿勢

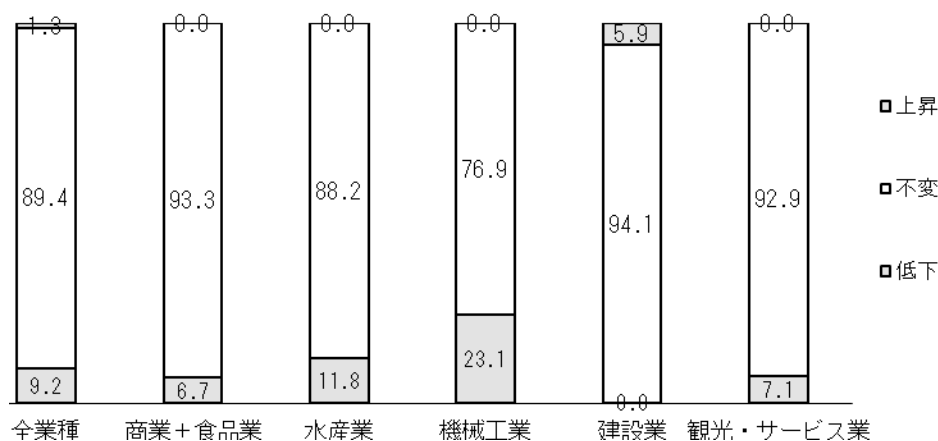


全業種平均でDI 値 Δ 2.5ポイント。商業食品業 Δ 5.9、水産業 Δ 11.8、機械工業 Δ 14.3、建設業 Δ 5.6、観光サービス業諸業 Δ 14.3。

(6) 今期の借入金の金利水準

【前年同期比】（平成 24 年 1 月～3 月期の水準と比較した今期の借入金の金利水準）

今期の借入金の金利水準

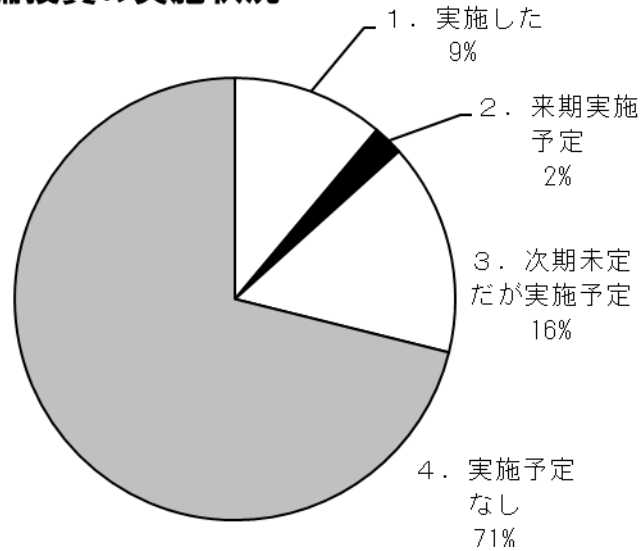


全業種平均でDI 値 Δ 7.9。商業食品業 Δ 6.7、水産業 Δ 11.8、機械工業 Δ 23.1、建設業 Δ 5.9、観光サービス業諸業 Δ 7.1。

(7) 設備投資の実施状況

今期の店舗・社屋・工場等への設備投資実施状況について

設備投資の実施状況

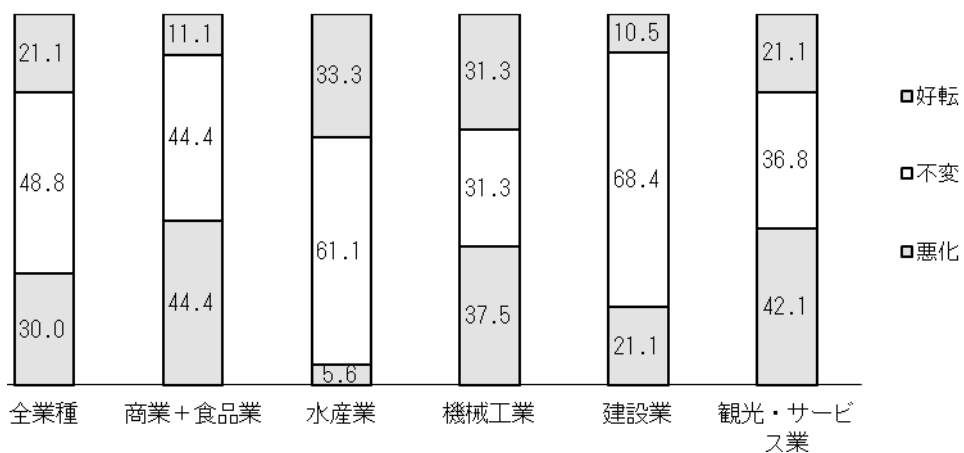


3. 来期の見通し

(1) 来期の業況

【今期比】（平成 25 年 1 月～3 月期の水準と比較した来期の業況見通し）

次期の業況見通し（今期比）

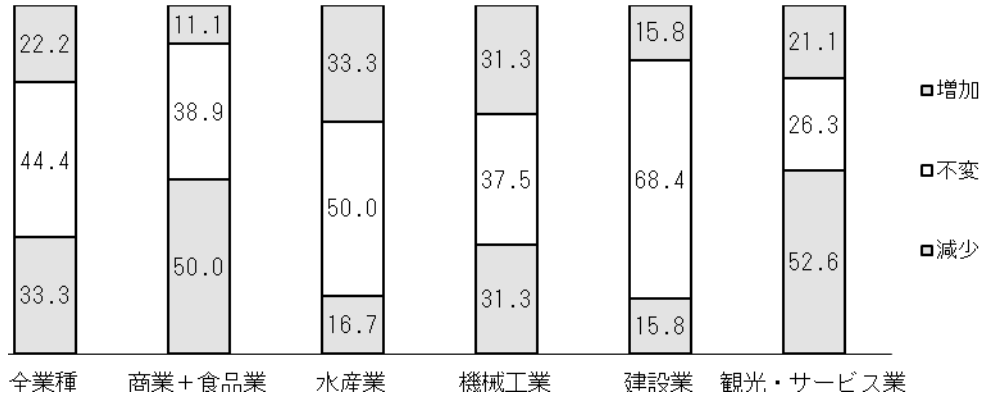


全業種平均でDI値 Δ 8.9〔今期の業況（前年同期比 Δ 18.9）より10.0ポイント改善の見通し〕

(2) 来期の売上高・生産高

【今期比】（平成 25 年 1 月～3 月期の水準と比較した来期の売上高・生産高見通し）

次期の売上高・生産高見通し（今期比）

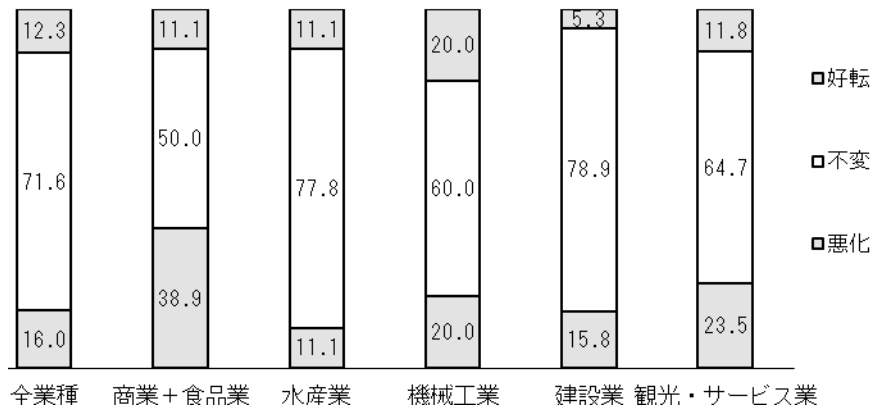


全業種平均でDI 値△11.1〔今期の売上高・生産高（前年同期比△32.2）より 21.1 ポイント改善の見通し〕

(3) 来期の資金繰り見通し

【今期比】（平成 25 年 1 月～3 月期の水準と比較した来期の資金繰り見通し）

次期の資金繰り見通し（今期比）



全業種平均でDI 値 △3.7〔今期の資金繰り（前年同期比△10.1）より 6.4 ポイント改善の見通し〕

Ⅲ. 各 指 標

		全 体	商 業 食 品 業	水 産 業	機 械 工 業	建 設 業	観 光 サ ー ビ ス ・ 諸 業
業況判断 D・I	今期実績	△18.9	△33.3	△33.3	△12.5	10.5	△26.3
	来期見通し	△8.9	△33.3	27.8	△6.6	△10.5	△21.1
売上 D・I	今期実績	△32.6	△55.6	△33.3	△12.5	△21.1	△36.8
	来期見通し	△11.1	△38.9	△16.7	0.0	0.0	△31.6
在庫 D・I	今期実績	△16.7	5.6	△38.9	—	—	—
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
採算 D・I	今期実績	△22.5	△47.1	△22.2	△12.5	△5.3	△26.3
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
資金繰り D・I	今期実績	△10.1	△33.3	5.6	△6.3	0.0	△16.7
	来期見通し	△3.7	△27.8	0.0	0.0	△10.5	△11.8
金融機関 貸出姿勢 D・I	今期実績	△2.5	5.9	△11.8	14.3	△5.6	△14.3
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
借入金 金利水準 D・I	今期実績	△7.9	△6.7	△11.8	△23.1	5.9	△7.1
	来期見通し	—	—	—	—	—	—

※借入金金利水準D・I値のプラス値については、借入金利が上昇したと感じた回答が多い時にプラス値で表示されます。